

自主防災組織活動報告～東秋留地区防災・安心地域委員会～

東秋留地区防災・安心地域委員会は、あきる野市の地域防災計画に位置づけられた、旧町村単位7つの地区に分けられた地域委員会の1つです。

当地区は、避難場所及び避難所の位置づけとなる小・中学校が6校あり、多くの町内会、自治会が拘わっていることから、避難所運営体制を構築するため、鋭意努力しているのが現状です。

地域委員会の活動は、防災コンクールや講習会等への参加、図上訓練による発災時の行動体制の確立、DIG研修によるまち歩きや避難ルート、危険箇所等の把握、避難所運営体制の確立、防災標語の募集、地域委員会委員の情報の共有化等、年間5回の委員会をコミュニティ応援隊の協力を仰ぎ開催に努めています。

本年度、当地域委員会のこれまでの防災活動が評価され、第五回東京防災隣組に認定されましたので、これを契機にワンランクアップの活動を継続して参りたいと考えてあります。

なお、秋多・東中学校のご協力により防災標語を募集したところ両校で約320点の応募があり、優秀賞（各校1点）には、図書カードを、佳作には防災グッズを贈呈しました。

東秋留地区防災・安心地域委員会 委員長 山口幸男

- ・知っておこう 私の地域の ハザードマップ
(秋多中学校 松岡吹希さん)
- ・備えよう もしもの時の 三日分
(東中学校 奥脇ゆりかさん)



テレビのデータ放送を活用しよう

風水害や土砂災害にかかる防災情報の取得方法の一つにテレビのデータ放送があることをご存知でしょうか。

テレビのデータ放送を活用することによって、気象情報等を簡単に取得することができます。

【操作方法】

- ①テレビのリモコンにある【dボタン】を押してください。
- ②画面にデータ放送が表示されますので、見たい情報をリモコンで操作して選んでください。

災害から身を守るために、情報収集が重要となります。積極的にデータ放送を活用しましょう。

*【dボタン】の位置、表記は機種によって異なります。
操作方法等について不明な点は、テレビの販売店やメーカーに問い合わせてください。



そなえ防災

あきる野市防災・安心地域委員会

平成28年9月30日
(第8号)
発行責任者
防災・安心地域委員会
本部長 倉田克治

災害に強いまちづくりに向けて



あきる野市長
澤井 敏和

近年、「東日本大震災」「平成27年9月関東・東北豪雨」「平成28年熊本地震」などの自然災害により、家屋倒壊、土砂崩れ、河川の氾濫、建物への浸水など、各地で甚大かつ深刻な被害がもたらされています。被災され、自宅を失い、避難所での生活を余儀なくされる方も数多くいらっしゃいます。

このような状況の中、最も重要なことは、市民の皆様が、日頃から災害の発生とその備えを自ら意識されることと、地域の防災力が強化されることであります。平成20年12月の設立から今日まで、防災意識の啓発活動、「そなえ防災」の発行、避難所管理運営マニュアルの作成、地域防災リーダーの育成など、地域防災の要として、その大きな役割を担う防災・安心地域委員会におかれましては、様々な活動に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

万一、大規模な災害が発生した場合には、市においても全職員一丸となって対応してまいりますが、支援、取組等が行き届かないこともあります。そうしたとき、地域社会における「自助」「共助」による活動が非常に重要となってまいりますので、防災・安心地域委員会の活動、取組のテーマである「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を市民の皆様、一人ひとりに持っていただけるよう、更なる活動の充実を期待しております。

市といたしましても、市民の皆様が安心・安全に生活することができるあきる野市を目指し、各関連機関等との連携強化に努めるとともに、今後も、防災・安心地域委員会と協働して、「災害に強いまちづくり」を推進してまいります。

あきる野市では、平成28年熊本地震による被災地へ職員を派遣いたしました。今回、被災地へ派遣されたあきる野市職員からコメントをいただきましたので紹介します。

被災地への派遣～熊本地震～

平成28年4月14日21時26分、平成28年4月16日1時25分、熊本県熊本地方を震源地とした最大震度7の地震が発生しました。この地震は、同地点で震度7を超える地震が2回発生し、多くの死傷者や家屋の被害を出しました。

あきる野市では、熊本県熊本市および上益城郡益城町に合計4人の職員を派遣し、派遣先での業務内容は、り災証明書を発行するための家屋調査業務及びり災証明書発行業務でした。

り災証明書とは、地震などで被災した家屋や事業所などの被害の程度を証明する書類であり、被災者生活再建支援金などの被災者支援制度の適用を受ける際などに必要となり、災害からの生活再建の第一歩となるものです。

熊本地震の被災者からも、多くのり災証明書の申請があり、派遣された職員が、家屋調査業務やり災証明書発行に係る業務に従事していました。

被災地での業務で感じたことは、災害時は特に、地元住民と協力して業務を行なう必要があるということです。派遣職員では被災地の詳しいことはわからないため、地元住民の協力なしでは、業務を行なうことができませんでした。

今回の被災地派遣で得た経験を、あきる野市の防災・減災活動に活かしてまいります。



本号の保存資料について

■地震 その時10のポイント

.....P.2-3

今すぐできる心構え!



ココが大事!

「東京防災」を活用しよう②

地震 その時10のポイント

黄色は防災ブックに
載っているページだよ。
見てね！

地震が発生したら、どこにいてもまず自分の身を守る！揺れがおさまったら落ち着いて行動を！

地震時の行動

地震だ！ まず身の安全

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- ・丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

【高層階（概ね10階以上）での注意点】

- ・高層階では、揺れが数分続くことがある。
- ・大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。

P.17,20~



落ちついて 火の元確認 初期消火

- ・火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- ・出火した時は、落ちついて消火する。



P.18

あわてた行動 けがのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



P.18

窓や戸を開け 出口を確認

- ・揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



P.19

門や塀には 近寄らない

- ・屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



P.19

自宅にいる時だけでなく外出時はどうしたらいい？
防災ブックを見てみよう。

家の中では？

- リビング・キッチンにいたら → P.20、21
- 寝室にいたら → P.22、23
- 2階、トイレ、風呂にいたら → P.24

P.37,48~51

火災や津波 確かな避難

- ・地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- ・沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



P.42

正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう 我が家の安全 隣の安否

- ・わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



P.44

協力し合って救出・救護

- ・倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



P.52,53

避難の前に 安全確認 電気・ガス

- ・避難が必要なときには、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



P.47